

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第054号(通算)

令和4年5月13日(金)発行

5月10日、11日には体育系の部活動の南薩地区大会が各地で開催され、一部の一年生も大会(試合)に出場しました。まもなく、県総体も始まります。三年生にとっては、高校生活の部活動として、集大成となる大切な大会です。持てる力を十分に発揮できる様に普段の練習でベストを尽せるように健康面のコンディションを最高レベルに整えていきましょう。**チェスト辺高生!**

南九州市広報誌 4月号の記事

~小学校卒業式に高校生が大作を制作~
特大の卒業証書で思い出を



3月24日、川辺小学校の卒業式で縦2m 30、横2m 90の卒業証書が登場し、卒業式に花を添えました。PTA役員が「思い出に残る卒業式に」という気持ちで、川辺高校書道部に依頼して大作の制作となりました。この特大の卒業証書は、特殊な紙・インクでできており、来年以降も使えるように工夫を凝らした作品です。卒業生たちは、受け取ったばかりの卒業証書を手し、友達などと記念撮影しました。

書道部の皆さんが3月に川辺小学校の卒業式に向けて巨大卒業証書を作成しました。



完成した作品の受け渡しの様子

青もみじ

青もみじとは、初夏、5月~7月頃のカエデの葉のこと。春の若葉からどんどん緑色が濃くなっていき、清々しく爽やかな景色を見せてくれます。瑞々しい青もみじと真っ青な空とのコントラストは、初夏の風物詩。



↑ 神戈陵の紅葉



↑ 中庭の紅葉
← 美術室横の紅葉
校内には、たくさんの紅葉があります。この時期のもみじも楽しんでみましょう

5月の色

5月の「**につぼんのいろ**」発見！
皆さんの身近な風景に溶け込んでいる日本語
特有の色の表現を発見し、楽しみましょう。



苗色(なえいろ)

少し黒みを帯びた明るい黄緑色は、稲の苗の色を表しています。時代によって、色名が微妙に変化しながら現在にまで伝わりました。田んぼにしっかりと根を張り、風にサワサワと揺れる美しい初夏の田園風景が目の前に広がるようです。



藤色(ふじいろ)

藤は花が風に散る様子を表す「風散(ふぢ)」に由来します。平安時代に藤色として広まり、薄い青紫色の基本色となりました。明治時代、樋口一葉が著した『たけくらべ』には勝気なヒロインの衣装としても登場しています。



若竹色(わかたけいろ)

若竹は、その年に生えてきた竹のことを指します。若竹の幹のような明るい緑色が眩しいですね。暮らしに身近な「竹」の付く色は他に「老竹色(おいたけいろ)」「青竹色(あおたけいろ)」「煤竹色(すすたけいろ)」などがあります。

突然 QUIZ(クイズ) 第二弾



正門を入れて右手の校舎の近くに写真の様な石が立っています。この石は、「矢石」と呼ばれ、旧制川辺中学時代から大切にされていたものです。この石には、言い伝えがあり、『昔むかし、田上岳と〇〇〇の神が戦っていました。その時、〇〇〇が射た矢の石が田上岳に届かず、この地に落ちた』と言うものです。さて、この〇〇〇は次のどこの山を指すのでしょうか???

①桜島山 ②開聞岳 ③富士山 の3択です
正解は次週号で発表!!